

令和8（2026）年度

第2学年

学習の内容と評価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

教科名	国語科	科目名	国語 Japanese Language / MYP: Language and literature	単位数
学年	2年			4 (135)

本科目の目標／伸ばしたい力

2年次は、読み取る力・書く力・聞き取る力・情報を整理する力・話す力について、1年次で身につけた基礎をさらに伸ばすとともに、様々なテキストや考えに触れることを通して、比較して考える力や問いを発見する力などを身につけます。

MYP 評価規準と評価方法

A：分析	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係を特定し説明する。 ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。 iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。 	定期テスト・小テスト・課題・発表など
B：構成	<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。 ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。 iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。 	定期テスト・小テスト・課題・発表など
C：創作	<ul style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思想、想像力、感受性を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。 iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。 	課題・発表など
D：言語の使用	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。 	定期テスト・小テスト・課題・発表など

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解尾したりしている。	定期テスト・小テスト・課題・発表など
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを拡げたり深めたりしている。	定期テスト・小テスト・課題・発表など

主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読者を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。	定期テスト・小テスト・課題・振り返り提出・発表などへの取り組み
使用教材		
教科書： 『伝え合う言葉 中学国語2』（教育出版） 『国語便覧』（浜島書店） 副教材： 『つなげて覚える漢字の完全マスター』（浜島書店） 『楽しく学べる文法ノート』（数学社）		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
教科書を使用しますが、単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習を行う予定です。		
話すこと・聞くこと	スピーチ・インタビュー・プレゼンテーション・ディスカッションなどの活動を通して、自分の意見を、根拠を明らかにして分かりやすく伝える。また、様々な立場や考えを比較しながら聞き取る。	
書くこと	文章を創作する活動を通して、文種（エッセイ・意見文・物語など、伝達すべき内容に応じた文章）に合わせて工夫をしながら表現する。	
読むこと	様々なジャンルの文章（説明的文章・文学的文章など）を読解する活動を通して、構成や展開に注意しながら文脈のとらえ方、筆者の考えの解釈の仕方、表現にそった心情・主題の読み取り方など、作品の読み方や解釈の基本を学んだりする。	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古典・短歌などの学習を通して、歴史と言語文化に親しみ、生活とのつながりについて考える。また、漢字・語彙・文法への理解を深め、読解や表現の学習に役立てる。	
備考		

教科名	社会科	科目名	社会（歴史的分野） Social studies / MYP: Individuals and societies	単位数
学年	2年			3 (105)

本科目の目標／伸ばしたい力

社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をい込む「力」
- 地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」
- 社会的な事象に対する自分の考えを、論理的な文章でまとめる「力」
- 学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」
- SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」

2年次の歴史分野の学習では、第1学年で学習した地理分野の知識と関連付けながら、歴史的な見方・考え方を学び、私たちが生きる「現代」という時代がどのようなものであるのかを考えることを目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	歴史的な事象に関する認識と理解の程度を評価します。	定期試験を中心に、その他課題等
B：調査探究	レポート等の課題に対し、論点の選択、計画、異なる視点から情報収集などがどの程度できたかを評価します。	レポート等
C：コミュニケーション	学習内容や調査内容を、他者に対していかに的確に伝えることがどの程度できたかを評価します。	授業中の発表、ポスター・レポート制作などの活動
D：批判的思考	史料・絵図・表などを分析し読み取ることがどの程度できたかを評価します。	定期試験や授業中の学習活動、課題等

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	社会的な事象に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめているかを評価します。	定期テスト、課題等
思考・判断・表現	社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしているかを評価します。	定期テスト、課題等
主体的に学習に取り組む態度	社会的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているかを評価します。	振り返りシート、授業中の活動等

使用教材

教科書： ともに学ぶ 人間の歴史（学び舎）

副教材： つながる歴史 東京都版（浜島書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	人類の誕生～12 世紀の日本と世界
2 学期	13 世紀の日本と世界～18 世紀の日本と世界
3 学期	19 世紀の日本と世界

備考

教科書、資料集以外に、授業中に配布する学習プリントや映像資料などを補助教材として用います。

教科名	数学科	科目名	数学 Mathematics / MYP: Mathematics	単位数
学年	2年			3 (105)

本科目の目標／伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- ・ 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- ・ 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- ・ 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- ・ 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	数学の概念とスキル（技能）に関する理解について評価します。	小テスト 定期試験
B：パターンの探究	様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を評価します。	レポート 定期試験
C：コミュニケーション	場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を評価します。	レポート 定期試験 振り返り
D：実生活への数学の応用	数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を評価します。	レポート 期末テスト

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	小テスト 定期試験
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	レポート 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	レポート 提出物 振り返り

使用教材

教科書： 「中学数学2」（教育出版）

副教材： 「TGUISS 数学2」「数学の学習ノート2」（正進社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4月～	時間数変更などにもなう変更が無いかが検討ください。 ①図形の移動 身の回りにあるいろいろな模様などを図形の移動という観点からとらえ、図形の性質を理解し、それらを利用できるようにします。 (主な学習内容) 平行移動、回転移動、対称移動
5月～	②一次関数と方程式 具体的な事象の中から関数関係を見出し、それらをもとに問題を解決できるようにします。ま

	<p>た、一次関数、連立方程式、一次不等式について理解し、それらを利用できるようにします。</p> <p>(主な学習内容) 一次関数、連立方程式、一次不等式</p>
7月～	<p>③相関と回帰</p> <p>2変量の統計データを処理する方法として、相関関係や回帰直線の意味について理解し、2変量間のパターンをとらえる能力を身につけます。</p> <p>(主な学習内容) 相関関係、散布図、回帰直線</p>
9月～	<p>③平行と相似</p> <p>動きをとまなうことで役割を果たすものから図形を見だし、その機能面に着目しながら、図形の軌跡、平行四辺形の性質、合同・相似の概念についての理解を深めます。</p> <p>(主な学習内容) 作図、平行線と角、平行四辺形の性質、合同な図形、相似な図形</p> <p>④図形の論証</p> <p>三角形の合同条件や相似条件などを理解し、それらを用いて平面図形の性質を論理的に考察する能力を身につけるとともに、数学的な推論の意義と方法について理解します。</p> <p>(主な学習内容) 証明のしくみ、三角形の合同条件、三角形の相似条件、直角三角形の合同条件、中点連結定理、平行線と比、重心、平行四辺形になるための条件</p>
2月～	<p>⑤円の性質</p> <p>円周角の定理をはじめとする円に関わる性質について、帰納的な推論と演繹的な説明の両面から考察します。論理的に考察したり説明したりする力や、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てたり、統合的・発展的に考察する力を養います。</p> <p>(主な学習内容) 円周角の定理、円周角の定理の逆、円に内接する四角形の性質、接弦定理、方べきの定理</p>
<p>備考</p> <p>授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。</p>	

2026/4/3 更新

別表1

別表2

TGUISS数学科 カリキュラム対応表

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学	
1	数の見方	整数	1年	○	
		正の数・負の数	1年	○	
	事象の見方	関数の考え	1年, 数学B	○	
		文字式	1・2年	○	
		一次方程式	1年	○	
	図形の見方	空間図形	1年	○	
		投影図	1年		
		平面図形 (おうぎ形・図形の移動)	1年	○	
		球の体積, 表面積	1年	○	
	データの分析	データの収集	1年	○	
		データの分布と分析	1・2年	○	
	2	一次関数と方程式	比例	1年	○
一次関数			2年	○	
一次不等式			数学 I	○	
連立方程式			2年	○	
平行と相似		平行四辺形	2年	○	
		相似な図形	3年	○	
		作図	1年	○	
図形の論証		三角形の合同条件	2年	○	
		三角形の相似条件	3年	○	
		三角形・四角形の性質	2年	○	
		円の性質	3年, 数学A	○	
相関と回帰		相関	数学 I	○	
		回帰の考え	なし	○[発展]	
3		三平方の定理と三角比	平方根	3年	○
			三平方の定理	3年	○
	三角比		数学 I	○	
	いろいろな関数とグラフ	反比例	1年	○	
		$y=ax^2$	3年	○	
		べき乗関数	数学 II	○	
		二次関数	数学 I	○	
		関数のグラフ	数学 I・III	○[上級]	
	数え上げ	二次方程式	3年	○	
		集合	数学 I・A	○	
	場合の数	数学A	○[発展]		

一般的な検定教科書		本校の独自テキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	文字と式	1	事象の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数と方程式
1	反比例	3	いろいろな関数とグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	データの活用	1	データの分析
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数と方程式
2	一次関数	2	一次関数と方程式
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形と四角形	2	図形の論証
2	確率	4	確率
2	箱ひげ図	1	データの分析
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	3	いろいろな関数とグラフ
3	二次方程式	3	いろいろな関数とグラフ
3	関数 $y=ax^2$	3	いろいろな関数とグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	標本調査	4	統計基礎

教科名	理科	科目名 物理入門 / 生物入門	単位数 4
学年	2年		

本科目の目標／伸ばしたい力

物理入門では、電流、電流と磁界、力、エネルギーを学ぶ。理科で学ぶ内容は学年が進むにつれて可視化が難しくなっていく。物理の学習では、観察や実験を通じて、規則性を見出すことや、論理的に物事を考えられる力を身につけていく。生物入門では、生物の体のつくり、進化について学ぶ。顕微鏡での観察や解剖、実験を通して、実物に向き合いながら、生物のありようを考える。比較、仮説の立案、仮説の検証といったスキルを身に付ける。1学年で植物の学習と比較しながら、生きるとはどのようなことなのか、自分なりの考えを深めていく。また、生物について理解しようとしてきた先人たちについて知ることで、科学はどのような営みなのかに迫る。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	<ul style="list-style-type: none"> i. 科学的知識について説明する。 ii. 科学的知識と理解を応用し、見慣れた状況下と見慣れない状況下で起きた問題を解決する。 iii. 情報を分析・評価し、科学的に裏付けられた判断を下す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ワークシート
B：探究とデザイン	<ul style="list-style-type: none"> i. 科学的研究によって検証する問題または質問について説明する。 ii. 正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を系統的に組み立て、説明する。 iii. 変数の操作方法を説明する。十分かつ適切なデータを収集する方法を説明する。 iv. 適切な材料と設備を選択するための論理的で完全かつ安全な方法をデザインする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 ・ パフォーマンス課題 ・ ワークシート
C：手法と評価	<ul style="list-style-type: none"> i. 数値形式および視覚的形式（またはそのいずれか）でデータを正しく収集し、整理し、変換し、発表する。 ii. データを正確に解釈し、正しい科学的推論を用いて結果を説明する。 iii. 科学的研究の結果に基づいて仮説の妥当性を評価する。 iv. 科学的研究の結果に基づいて方法の妥当性を評価する。 v. 科学的研究に役立つ方法の改善または拡張について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 ・ パフォーマンス課題 ・ ワークシート
D：科学による影響の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> i. 具体的な問題または課題への対処に科学がどのように応用され、用いられるかを説明する。 ii. 一つの要因と関係づけながら、具体的な問題または課題の解決に科学とその応用を用いることが与える影響を論じ、評価する。 iii. 科学用語を一貫して応用し、理解したことを明確にかつ正確に伝える。 iv. 情報源を完璧に明記する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の振り返りシート ・ レポート課題 ・ ワークシート

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i. 科学的知識について十分に理解を示す。 ii. 実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii. 定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv. 情報源を完璧に明記する。 v. 科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ パフォーマンス課題
-------	---	---

	題について多面的に述べる。	
思考・判断・表現	<p>i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。</p> <p>ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。</p> <p>iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。</p> <p>iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。</p> <p>v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。</p> <p>vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題 ・レポート課題 ・定期考査 ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	<p>i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <p>ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。</p> <p>以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの振り返り ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
使用教材		
教科書： 新編 新しい科学（東京書籍）		
副教材： なし		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
物理入門		
1 学期	電流とその利用に関する内容を学習します。	
2 学期	運動とエネルギーに関する内容を学習します。	
3 学期	科学技術の発展に関する内容を学習します。	
生物入門		
1 学期	動物のからだのつくりとはたらきの内容について、解剖を通して学習します。	
2 学期	植物のからだのつくりとはたらきの内容について、観察・実験を通して学習します。	
3 学期	生物の遺伝や生殖の内容について観察・実験を通して学習します。	
備考		

教科名	保健体育科	科目名	保健体育 Health and Physical Education / MYP: Physical and Health Education	単位数
学年	2年			3

本科目の目標／伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を活用しようとする。
 一連の動きや技の構成などをスムーズに展開することができ、表現豊かに運動することができる。
 運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ることができる。
 個人やグループで、簡単な作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりできる。
 学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、協力して懸命に取り組んだりすることができる。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	定期考査、授業中の学習活動・まとめ等から、健康や運動・体育理論の知識に関する理解度および活用の程度を評価します。
B：活動の計画	体育ノートの記述や課題等から、明確な目標設定、自己分析提示、段階的な技術習得や練習の工夫、作品づくりの計画がどの程度できたかを評価します。
C：応用と実践	授業中の活動・技術練習・実践の様子から、自己の動きの分析・練習内容の創意工夫による技術向上や表現ができたかどうかを評価します。
D：活動の振り返りと改善	授業中の学習活動・体育ノート・課題等から、動きを分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	体育・体育理論に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	実践的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	体育・体育理論を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、授業中の学習活動や振り返りなどの記述から総合的に評価します。

使用教材

教科書： 中学保健体育（Gakken）

副教材： 中学体育実技（Gakken）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	<p>体育</p> <p>① 体づくり運動／スポーツテスト：4月～5月</p> <p>② 陸上競技（走り高跳び）／ダンス：5月～6月</p> <p>③ 水泳：6月～7月</p> <p>保健</p> <p>健康な生活と病気の予防②、障害の防止</p>
2 学期	<p>体育</p> <p>④ 球技（ゴール型）：9月～10月</p> <p>⑤ 陸上競技（ランニングを中心として）：11月～12月</p>
3 学期	<p>体育</p> <p>⑥ 器械運動（とび箱運動）／武道（柔道）：1月～3月</p> <p>⑦ 体育理論Ⅱ（スポーツの効果と安全）：1月～3月</p>

備考

見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。

教科名	音楽科	科目名	音楽	単位数
学年	2年		Music / MYP: Arts	1.5

本科目の目標／伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準と評価方法

A：調査	学習する題材そのものついて、あるいは関連する情報や、単元の探究テーマと関連づく事柄について幅広く調査し、分析や批評する力を評価します。	
B：発展	作品や演奏、パフォーマンスに向けたアイデアを創出し、それらを楽譜や DTM、図表で明示し、そのアイデアが妥当であることを説明する力を評価します。また、単元の掲げる探究テーマと関連づけて作品の芸術的意図を説明する力も評価します。	
C：創作・実演	芸術的意図の伝わる成果物や、音楽の演奏、パフォーマンスの実演を評価します。	
D：評価	自他の芸術作品や演奏発表、パフォーマンスについて評価したり、批評したりする力を評価します。自ら評価規準を設定できる力も評価の対象となります。また、	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	調査したことを含め、学習した題材の知識や音楽を形づくる要素そのものへの理解について評価します。また、奏法やパフォーマンスの技法についても評価します。	
思考・判断・表現	音楽を形づくる要素を用いた表現の工夫や、単元の探究テーマと関連する考察や問いの答えを評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	作品や演奏発表に向けたプロセスの記述や自己評価を含む振り返りを評価します。これには、IB の ATL スキルの活用も含まれます。	

使用教材

教科書： 教育芸術社 中学生の音楽 2・3 上 / 中学生の器楽

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	共通教材歌唱（荒城の月）【歌唱】 リズム演習（リズム創作と実演）【創作】
2 学期	和太鼓演習 II（和楽器体験）【器楽】 L.v.Beethoven 交響曲第 5 番および MYP 重要概念「変化」の探究【鑑賞】 ギター演習 II / Take me home, Country Roads の歌唱【歌唱・器楽】
3 学期	混声 3 部合唱【歌唱】 We are the World（入学式“歓迎の歌”練習）【歌唱】

備考

教科名	美術科	科目名	美術	単位数
学年	2年		Visual Arts / MYP: Arts	1.5

本科目の目標／伸ばしたい力

美術科では6年間を3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

2年生は基礎的な学習を深める時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準と評価方法

A：調査	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文脈における具体的な芸術作品 ・科目特有の用語を使って、調査、プロセス、アイデアを効果的に伝える方法 	
B：発展	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな芸術創作形式、手法、実践の実験に取り組む ・アイデアを実践的に探究することでアイデアを発展させる 	
C：創作・実演	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術作品の創作に特定のスキルを応用する ・芸術を創作するためにさまざまな方法、技法、実践法を用いる 	
D：評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の創作が、自分の芸術的意図をどの程度達成しているかを考える ・自他の創作が受け手に与える影響を考える ・芸術技法の習得と発達を振り返る ・ATL スキルの発達を振り返る 	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し創造的に発想し構想を練る ・価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度 	

使用教材

教科書： 開隆堂 美術2・3

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	<p>デザイン・版画 様々な版画の種類と特徴について学習し、版画の特性を自己の表現に生かした作品を制作します。</p> <p>数学科との IDU（学際的単位）で、パターンをデザインします。</p> <p>（主な学習内容・活動内容）版画の種類と技法、伝統模様、パターンの表現、鑑賞</p>
-----	---

2 学期	<p>絵画 様々な表現技法を学び絵画作品を制作します。</p> <p>(主な学習内容・活動内容) 遠近法、様々な技法、空想して描く、鑑賞</p>
3 学期	<p>彫刻・工芸 素材を生かした工芸作品を構想・制作します。</p> <p>(主な学習内容・活動内容) 工芸、伝統工芸、彫刻、鑑賞</p>
備考	
* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。	

2026/3/25 更新

教科名	外国語科	科目名	英語 Core	単位数
学年	2年		Foreign Languages / MYP: Language Acquisition	6

本科目の目標／伸ばしたい力

2年次は、1年次で身につけた基礎の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。

語彙、文法を基礎として、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。特に多くの読む・書く経験を通して、情報を得て、まとめ、分析して記述する力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。また、2年次では、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。

At the end of phase 2 (Emergent Level), students should be able to do the following in simple authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and some complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	言語材料 (文法, 語彙, 表現など) に対する理解や, 4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして, 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え, 学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)

副教材： True Stories Silver Edition 1B (Pearson)・ Graded Readers (Oxford Bookworms Library)

Q Skills: Intro Reading & Writing Students Book (オックスフォード大学出版局)

Q Skills: 1 Reading & Writing Students Book (オックスフォード大学出版局)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

教科書の学習内容を踏まえて、英語の基礎を学習し、さらに表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。言語、世界の文化、職業、技術、ユニバーサルデザイン、広告、世界遺産、環境問題など。

備考

2026/3/5 更新

教科名	外国語科	科目名	英語 Advanced	単位数
学年	2年		Foreign Languages / MYP: Language Acquisition	6

本科目の目標／伸ばしたい力

2年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を維持していく学年と位置づけています。

これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていくことで、イマージョン授業開始まで、英語力を維持していきます。

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all of the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	言語材料 (文法, 語彙, 表現など) に対する理解や, 4 技能の定着を評価します。
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして, 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え, 学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。

使用教材

教科書： NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)

副教材： Q Skills: 4 Reading & Writing Students Book (オックスフォード大学出版局)

Q Skills: 5 Reading & Writing Students Book (オックスフォード大学出版局)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。時事、政治、言語、文化、発展と保護、社会、経済、メディアなど。

備考

2026/3/5 更新

教科名	技術科	科目名	技術 Technology / MYP: Design	単位数
学年	2年			1

本科目の目標／伸ばしたい力

プロジェクトをはじめとする、技術に関する実践的・体験的な探究活動を通して、現代的な課題に対し、技術の最適化によって解決策を見出そうとする能力や態度を養います。

2学年では、1学期にてサーバー側とクライアント側を意識した簡単なアプリ開発を行い、2・3学期にはグループプロジェクトにより、選択したアジアの都市のための自動車モデルを提案します。

MYP 評価規準と評価方法

A：探究と分析	課題解決の必要性を説明します。課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつけます。リサーチの結果、解決に必要な条件を説明します。	プロセスシート（レポート）、定期テスト
B：アイデアの発展	解決策の条件の一覧を作成します。複数のデザイン案を提示し、その中から他者が正しく解釈できる、実現可能なデザインを選択し、その特長を説明します。	プロセスシート（レポート）、定期テスト
C：課題解決	時間やリソースを考慮した計画を立てます。製作にあたり、技術的スキルを提示します。計画に従って作成します。製作にあたり、デザインや計画の変更点を挙げます。	プロセスシート（レポート）、定期テスト、成果物
D：評価	解決策の効果を評価するための適切なテスト方法を考案します。テスト結果から、解決策の効果や、改善点を説明します。解決策がターゲットに及ぼす影響を説明します。	プロセスシート（レポート）

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているかどうかを評価します。	定期テスト、成果物
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているかどうかを評価します。	プロセスシート（レポート）
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしているかどうかを評価します。	プロセスシート（レポート）、振り返りなど ※MYP 評価で扱わない評価物も含まれます。

使用教材

教科書： 『新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology』（東京書籍）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	「情報の技術」を学習し、双方向型アプリを開発・提案します。
2学期	「エネルギー変換の技術」を学習しつつ、グループごとに自動車モデルのリサーチとコンセプト提案を行います。
3学期	期日までに自動車モデルを製作し、クラス内でモデルのコンペティションを行います。

備考

隔週（二週間に1回）が基本になります。家庭科と交互に行います。

教科名	家庭科	科目名	家庭 Home Economics / MYP: Design	単位数
学年	2年			1

本科目の目標／伸ばしたい力

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

MYP 評価規準と評価方法

A：探究と分析	<ul style="list-style-type: none"> i. 家庭生活における課題を解決する必要性をだれもが分かるように説明できる ii. 家庭生活の課題解決に必要な調査のポイントを述べ、優先順位を立てることができる iii. 家庭生活の課題を書き出すことができる iv. 家庭生活に関する調査の結果を発表することができる 	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート
B：アイデアの発展	<ul style="list-style-type: none"> i. 課題解決を行うため必要なことを挙げるができる ii. 実現可能な計画を複数作り、他者によくわかるように発表することができる iii. 選んだ課題解決の方法を1つ提出することができる iv. 選んだ計画を実行するため、要点をまとめた計画図を作ることができる 	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート
C：課題解決	<ul style="list-style-type: none"> i. 資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、家庭生活における課題解決をすることができる ii. 家庭生活における課題解決で優れた技術を示すことができる iii. 計画に従って課題解決を行い、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を挙げるができる iv. 実行した課題解決の方法を発表することができる 	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート
D：評価	<ul style="list-style-type: none"> i. 課題解決の成果を判断するため、簡単なテストの方法の要点をまとめ、データを示すことができる ii. 計画図とは別に課題解決の成果について要点をまとめることができる iii. 家庭生活における課題解決をどのように改善したか要点をまとめることができる iv. 課題解決の成果が家族や地域の人々に与える影響について要点をまとめることができる 	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解し、それらに係る技能を身に付けている。	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート
思考・判断・表現	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身に付けている。	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート
主体的に学習に取り組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとしている。	ワークシート・ 振り返りシート・ テスト・レポート

使用教材

教科書： 技術・家庭「家庭分野」(開隆堂)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

年間を通して「食生活」について学習します。学期ごとに1回ずつ調理実習を行う予定です。

備考

隔週（二週間に1回）が基本になります。技術科と交互に行います。

教科名	国際教養	科目名	国際教養／ISS 課題探究 I・II・III	単位数
学年	1～6年		Global Liberal Studies; ISS Inquiry Project I・II・III	1

本科目の目標／伸ばしたい力

- 〈1年〉 様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。
- 〈2年〉 様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉 様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉 自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉 異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉 社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	1～3学年で開設されている「国際教養」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」に対応します。 4～6学年で開設されている「ISS 課題探究 I～III」の時間は、「総合的な探究の時間」に対応します。数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。 国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

- 1年 「国際教養」
- 2年 「国際教養」
- 3年 「国際教養」
- 4年 「ISS 課題探究 I」、「Global Issues」、「英語以外の言語」
- 5年 「ISS 課題探究 II」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「ISS 課題探究 III」「国際 A」「国際 B」

上記の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプ I・II（国内）・III（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。

1年から3年では、4年次において PP（パーソナルプロジェクト）を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。また4年次 PP 完成後は、5・6年の課題探究を充実したものにするための学習活動を行います。さらに、4・5・6年の「ISS 課題探究 I・II・III」では、学年の枠を越えた形態での探究活動も行います。

備考